ときの玉手箱

～博物館からのメッセージ～

第111回

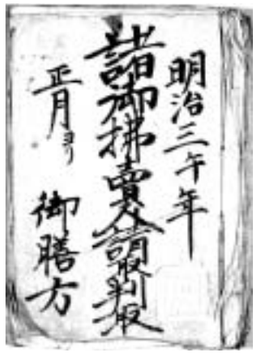
彦根名産・赤かぶら漬の系譜

彦根の冬の特産品に赤かぶら漬があります。赤丸かぶらを松原の湖岸で稲架がけして干し、漬物にします。

赤かぶらの漬物は江戸時代から彦根で作られていました。その産地は小泉村（現・小泉町）。濃い紅色で長さ10㎝あまりの下ぶくれ型をしており、「小泉かぶ」と呼ばれて親しまれていました。

この紅かぶら漬の成立には次のような伝承が残っています。

江戸時代中ごろ、小泉村の者が彦根城の庭園の手入れをしていた時に、庭の一隅に、葉は淡紅色で根は濃紅色のかぶらを見つけ、藩主に申し出たところ、藩主は喜んで、その種を取って栽培するよう命じた。そこでできたかぶらを漬物にして藩主に献上したところ、「結構なる漬物なり、今より小泉紅かぶらと名付けて当地の名産とするように」と、漬物にして普及するよう奨励したという。



▶▼御膳方判取帳（彦根城博物館所蔵）

この話は地元に伝わるものですが、実際、小泉かぶが彦根城に納められていたことも確認できます。

藩主が暮らした彦根城表御殿で料理を担当していた「御膳方」の食材代金支払い記録によると、明治3年11月に、小泉村の新七という者が赤かぶら200本を納めています。これだけの量を一度に買い入れるのは、漬物にするためでした。御膳方では、普段食べる漬物を漬けており、赤かぶらはぬか漬にされました。御殿で使う野菜は、基本的に城下の八百屋が納めることになっていましたが、漬物にする大量の野菜は生産した村から直接買っていたのです。明治維新を迎えた時期の史料ですが、御殿には彦根藩知事の井伊直憲や正室の宜子が住んでおり、食事の準備は江戸時代のままといえます。

実は、新七は普段から御殿に勤め、御膳方で働く「板の間」役に就いていました。小泉村から御殿に出勤し、台所の雑用をこなしていたと思われます。彼は赤かぶらの他にも大根や瓜を御殿に納めているので、農村と御殿の台所をつなぐ存在だったのでしょう。

小泉かぶ発見の伝承でも、小泉村の者が御殿の庭を手入れしていたとあるため、彦根近郊の小泉村は、御殿のくらしを支える役割があったといえます。

小泉かぶは、戦後の嗜好の変化でほとんど作られなくなりました。昭和62年の世界古城博覧会のころには地元で復興されましたが、現在では途絶えています。

現在赤かぶらを栽培している松原から米原市にかけての湖岸地域では、かつて小泉かぶを祖とする「入江かぶ」が栽培されていました。現在漬物にされるのは別の品種ですが、小泉かぶの系譜をひく赤かぶら漬の伝統は、今に継承されています。

（彦根城博物館　野田浩子）

写真の史料は、彦根城博物館テーマ展「彦根の食文化」（11月29日まで）で展示しています。

施設だより

ひこね市文化プラザ

☎26-8601　FAX 26-8602

11月の休館日：7(月)・14(月)・21(月)・28(月)

12月

18日(日)　14：00～

第8回 ひこね市民手づくり第九演奏会

指揮：井﨑正浩（写真）

自由　前売1,500円（当日2,000円）

【好評発売中】

毎年レベルアップするこの演奏会。10月に始まった井﨑先生の指導にも熱が入っています。今年はどんな仕上がりを見せるのか。本番の演奏にご期待ください。

1月

27日(金)　18：30～

劇団四季 ミュージカル

「クレイジー・フォー・ユー」

☆「オペラ座の怪人」、「キャッツ」、「ライオンキング」に並ぶ劇団四季の代表作!!

指定　S席8,400円　A席6,300円　B席5,250円

【好評発売中】

マーク：託児サービスがあります。（要予約）

マーク：公演終了後、彦根駅行き・南彦根駅行きの臨時バスの便があります。

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200

子どもセンター

☎28-3645　FAX 28-3645

11月の休館日：4(金)・7(月)・14(月)・21(月)・24(木)・28(月)

11月

25日(金)　19：00～21：30　【悪天候の場合26日(土)】

第5回　天体観望楽「星 の 雲 の 外」
-まばらな星空の向こうを見よう!!-

☆30cm天体望遠鏡やプラネタリウムなどを使い、「まばらな秋の星空」に隠れている重星や星雲・星団の観望と、「ペガススの四辺形」からたどる秋の星座探しを行います。

☆参加費：300円（小学3年生以下は無料）

※開催当日、16：30以降に開催の有無をお問い合わせのうえご来館ください。

募　集

子どもスタジオ・ラボ7

「センサーロボットを作ろう」

○**日時**：12月11日(日)　9：30～12：30

○**内容**：工作の楽しさや喜びを味わうとともに、「工夫する知恵」や「物の原理」を体験する機会として、電池で動き、音に反応する「センサー付ロボット」を作ります。

○**対象・定員**：小学4～中学生とその保護者　18組（先着順）

○**受講料**：1,890円

○**申込方法**：所定の申込用紙（子どもセンターにあります。）に必要事項を書いて、受講料を添えて子どもセンター窓口へ。※電話による申込は不可

○**申込期間**：11月5日(土)～20日(日)　8：30～17：00

※定員になりしだい締め切ります。

※11月7日(月)・14日(月)は受付けできません。

彦根城博物館

☎22-6100　FAX 22-6520

11月29日(火)～12月1日(木)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間　8：30～17：00（入館は16：30まで）

テーマ展

～11月29日(火)

「彦根の食文化」

地元の素材を使った食事や贈答品を通じて、江戸時代彦根の豊かな食文化を紹介します。

▲直憲様御膳帳

関連事業

◎伝統の銘菓「益寿糖」の特別提供◎

テーマ展「彦根の食文化」開催期間限定（～11月29日）

江戸時代から彦根で作られ、藩主も食し、贈答にも使われた彦根の銘菓「益寿糖」を博物館のお茶席でご賞味いただけます。

■料金：500円（薄茶込み）《観覧料が必要です》

※限定品につき品切れの際はご了承ください。

テーマ展

12月2日(金)～22日(木)

「中国故事人物のすがた」

陶淵明や林和靖など、江戸時代の絵画や工芸品の中にあらわれる中国故事人物を紹介します。

観覧料が必要です

ギャラリートーク「中国故事人物のすがた」

12月3日(土)　14：00～15：00

※事前申し込みは不要です。当日館内講堂にお集まりください。

解説：本館学芸員　髙木文恵

行事案内

聴講無料

講座「義経の鎧と井伊の赤備え―甲冑の形態の変遷―」

11月26日(土)　14：00～15：30　会場：本館講堂にて

講師：本館学芸員　坪内広子

常設展の名品

～11月29日(火)

厚板 白地青海波に草花など入り扇散らし文様

草花や文様をおさめた扇面を散らす華麗な能装束。

▲厚板

11月30日(水)～12月21日(水)

重要文化財 侍中由緒帳

彦根藩士すべての由緒、経歴を記した台帳。

市民体育センター

☎23-2293　FAX 23-2294

11月の休館日：1(火)・4(金)・8(火)・15(火)・22(火)・24(木)・29(火)

11月

20日(日)　13：30～16：00

フレッシュスポーツデー

☆内容：スポーツの秋!!いい汗流してみませんか？だれでもできるニュースポーツを紹介します。

☆予定種目：ダブルダッチ　ファミリー・バドミントン　ディスコン（写真）ほか

☆参　加　費：小学生以上1人200円（当日、受付でお支払いください。）

※運動のできる服装で、体育館シューズを持ってご参加ください。